

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



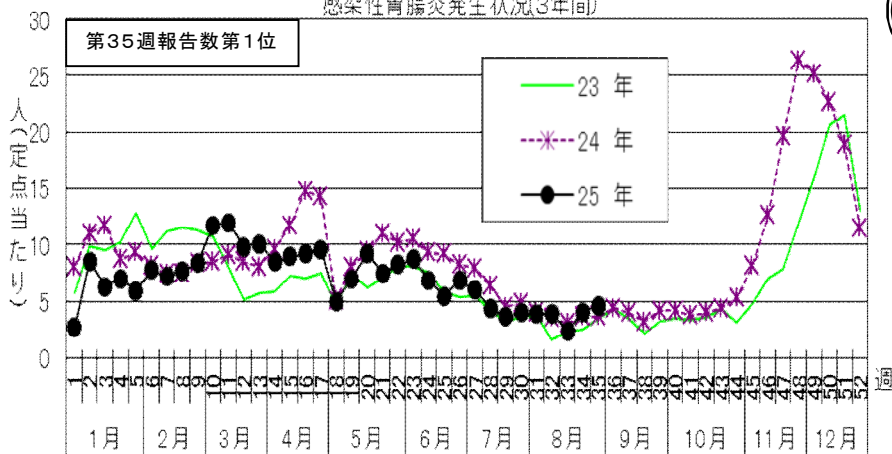
KAWASAKI CITY

平成25年8月26日（月）～9月1日（日）〔平成25年第35週〕の感染症発生状況

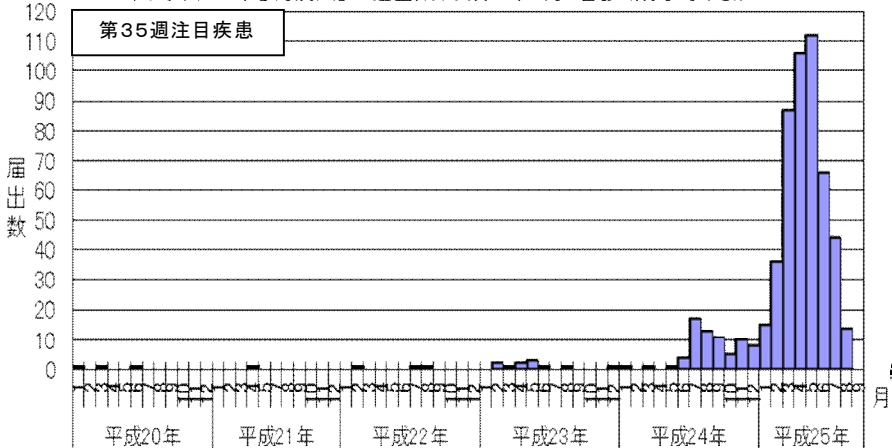
第35週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)手足口病 3)ヘルパンギーナ でした。
感染性胃腸炎は定点当たり4.61人と前週（4.03）より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。
手足口病は定点当たり3.91人と前週（4.81）より報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。
腸管出血性大腸菌感染症の届出が11件ありました。引き続き発生動向に注意が必要です。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



川崎市における月別風しん届出数(平成25年9月1日診断分まで集計)

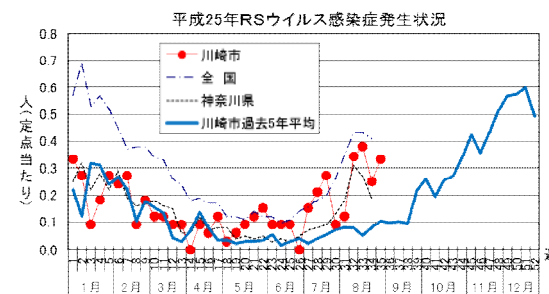


「RSウイルス感染症」～秋から冬を中心に流行する感染症～

RSウイルス感染症は、「RSウイルス」を原因とする呼吸器疾患で、ほとんどの乳幼児が2歳までに感染します。例年12月頃に流行のピークを迎えますが、現在、全国的に過去最多(平成15年のデータ収集開始以降)のペースで報告数が増加しており、川崎市も同様の傾向であるため、今後注意が必要です。

RSウイルス感染症はどんな症状？

潜伏期間は3～5日で、発熱、鼻汁、咳などの風邪様症状が出ます。また、乳児患者の10～40%が呼吸困難などの下気道炎を起こすといわれています。さらに、心臓や肺に基礎疾患をもつ小児は、重症化のリスクが高くなります。



RSウイルス感染症を予防しよう！！



患者の鼻水や咳などから感染するので、手洗いの徹底やマスク着用などの「咳エチケット」を心がけましょう。

また、流行期(特に冬場)に乳幼児を連れて外出する際には、人ごみを避けましょう。

上のグラフのとおり、報告数が例年よりも早い段階から増加しています。

